

## これまでの指摘事項について

## 平成 23 年度第 1 回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項

## ○ 斐伊川連続調査結果について

指摘事項	対応
TNについて、同じ流量でも夏季の負荷量は低く冬季は高いことになる。このような場合、1本のL-Q式では不十分だと思う。(石飛委員)	流量確定後、流量分布等を勘案し、複数の式の算出が良いかどうか検討する。
TOCについて、実測値とL-Q式の値が随分違うので、1本の式でよいのか検討が必要と思う。(清家委員)	
NとPの流入負荷量が増えている原因等について確認したい。(吉田委員)	

## 平成 23 年度第 2 回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項

## ○ プランクトン調査結果について

指摘事項	対応
宍道湖湖心のクロロフィルの経月グラフ（別添資料図 28）と、PP 細胞数の経月グラフ（図 29）において、データが記載されていない部分がある。(山室委員)	(国交省)

## ○ 宍道湖毎週調査結果について

指摘事項	対応
宍道湖TP現存量について、P28とP29のグラフで値が異なる。(吉田委員)	軸のタイトルに誤りであり、修正した。(資料2-1)

## ○ 流入負荷量の把握の精度向上について

指摘事項	対応
L-Q式について、流量によって粒子態か溶存態かの分け方がうまくできるのか検討が必要と思う。(中田委員)	斐伊川連続調査に係る流量確定後、流量分布等を勘案し、複数の式の算出が良いかどうか検討する。
モデルにおいて、各態の割合（洪水時など）について、どう設定するのか検討が必要と思う。(中田委員)	
洪水がある場合に負荷量をどう見積もるか検討が必要と思う。(山室委員)	

○ これまでの整理等について

指摘事項	対応
39ページについて、県の調査で得られた知見以外についても含めて、再整理が必要と思う。(山室委員)	修正した。(資料4)